

## 秋成の著作にみえる書名索引稿

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード: 作成者: 木越, 治, Kigoshi, Osamu メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/23680">http://hdl.handle.net/2297/23680</a>

(14) 岩波文庫『法華経』(坂本幸男・岩本裕訳注、昭和三十九年三月刊)の訓みによる。

(15) なお、文殊師利は、龍女の現れる前に、娑竭羅龍女の女は菩薩に至る能力を具えていると、智積菩薩に語っている。

(16) (2)の松尾論文。

(17) 『雲玉和歌抄』(古典文庫、昭和四十三年三月刊)の夏部120「いひそめしむかしの宿のかきつはた色はかりこそかたみなりけれ」の歌の次に、「女の夢にかへしける哥」(傍点は引用者)として以「むらさぎの色にいてすはそれとみしいとよへたつる宿のむかしを」という返歌を掲げ、その左に「杜若の情の哥也是より女をかきつはたと云也」(「情」は「精」か)と注記している。なお、伊藤正義「謡曲と伊勢物語の秘伝」(『金剛』

昭和四十年五月)「謡曲『杜若』考——その主題を通して見た中世の伊勢物語享受と業平像について——」(『文林』昭和四十二年十二月)は中世における『伊勢物語』享受は原典よりも古注に基づいてなされたことを検証している。

(18) 謡曲『定家』によって定家寫の名が成立したというのが通説である。つまり、このイメージは謡曲作者の創意によるものである。

(19) 『藤』は古い作者付には載らず、明和二(一七六五)年刊『二百拾番謡目録』に安清作としてその名が見え、また『梅』は明和の謡本改正の際の新作で、賀茂真淵らが書いたものかといわれている。

## 秋成の著作にみえる書名索引稿

木 越 治

はじめに

秋成には蔵書目録や読書筆記(庭鐘)における「過目抄」のごとき

の類が知られていない。しかし、「雨月」「春雨」をはじめとする彼の著作を研究していく場合、この種の目録の必要性を痛感するところが少なくない。

今回、ごく杜撰なかたちではあるが、秋成の主要著作のうちから書名（一部作品名なども含む）を抜き出し整理してみた。もちろん著作に明記されている書名のみを拾ったもので引用文・引用歌等には及んでいないから、たとえば「雨月」について現在確認されている典拠書目の大部分は含まれないことになる。そういう欠点はあるにしても、秋成の説書傾向等を知る一応の目安にはなるかと思う。短時日の間に作製したため、意に満たぬ点が少なくない。また調査不足や見落し等による誤りも多いであろう。これらの点は、大方の御教示を得て、後日補訂の機会を得たいと思う。

### 凡例

- 一、書名（書名に準ずるものを含む）の表示は、『国書総目録』（和書）・『改訂内閣文庫漢籍分類目録』（漢籍）に主として拠ったが、秋成の表示を尊重した場合（「書名」の形で注記した。二、著作略号の下の洋数字はページ数を示す。
- 三、特に意味があると思われる異名は区別して示しその旨注記したが、他は一括し代表的な異名のみによって項目の下に示した。
- 四、書名の下位分類は——によって示すが、秋成が明記している

- ものにとどめ、それ以上の調査は行わなかったことが多い。
- 五、配列は五十音順を原則としたが、風土記や碑文類のごとく一箇所にあつめた場合もある。
- 六、序文類などにある当該の書名は採っていない。
- 七、その他問題になる点は適宜注記した。

### 著作略号ならびに底本一覽

- 猿||諸道聴耳世間猿、有朋堂文庫上田秋成集
- 妾||世間妾形氣、同右
- 雨||雨月物語、日本古典文学大系上田秋成集
- 機||書初機嫌海、古典文庫
- 談||瀾癖談、同右
- 春||春雨物語、日本古典文学大系上田秋成集
- 胆||胆大小心録、同右
- 一||上田秋成全集第一（雨・談・春・胆を除く）
- 二||上田秋成全集第二
- 遺||秋成遺文（胆・一・袖などと重複するものを除く）
- 袖||万葉集袖の袖、歌謡俳書選集八
- 茶||茶癖醉言、中村幸彦氏「近世作家研究」

## I 和書

あ

- 愛花人の詞（楞亭）
- 堪囊抄
- 秋秋帖（小野道風筆）

一 68  
二 314 351  
袖 25

秋山の記（秋成）  
朝忠集

浅間嶽を見て記せる詞（賀茂翁家集卷四）

一 172  
二 362 382  
遺 200

蘆屋道満大内鑑||蘆屋道満の狂言  
意見十二箇条||意見封事十二条（三善清行）  
猿 101

春 167

一条 春 167 遺 77  
 四条 談 115 春 167 遺 82  
 五条 二 194 遺 78  
 十二条 春 167 遺 202  
 十六夜日記いざよひ 二 385  
 伊勢集 二 291 326 363  
 伊勢大神宮儀式帳 延暦の儀式帳(↓皇太  
 神宮儀式帳) 一 60 二 313 381  
 伊勢物語 勢語・在五中将物語 猿 72 談  
 174 二 67 79 95 110 159 385 386 387  
 403 408 遺 523 545 563 袖 216 376  
 安祥寺法会の段 二 151 袖 269  
 伊勢物語古意(真淵) 二 377  
 一夜四吟後集(蕪村等、↓此ほとり) 遺 584  
 今宮の心中(近松) 妾 173  
 伊予道後湯岡碑文(聖徳太子) 二 192 遺 75  
 岩橋の記(秋成) 一 73  
 印章備放(柳原玄輔) 一 495

う  
 浮世親仁形氣 親爹の吝嗇気質 妾 117  
 宇治大納言物語 二 301  
 薄雪物語 猿 87  
 うそ姫ものがたり(↓ふくろふ) 談 188  
 宇津保物語 猿 75 袖 322  
 え  
 柴花物語 猿 84 胆 332 二 386  
 うたがひの巻 胆 332  
 世継物語<sup>注1</sup> 二 9 11 12 219 239 袖 22  
 延喜式 機 10 二 51 109 141 151 152 167 320  
 402 遺 340 503 袖 79 143 269 360 499  
 祝詞 一 467 469 二 316 372 411 432 遺 523  
 祈年祭 二 371 袖 112  
 春日祭 一 469  
 竜田風神祭 二 167 396 遺 264  
 平野祭 一 469  
 大殿祭 一 278 袖 469  
 御門祭 一 469 二 313 340  
 六月晦大祓 一 469 二 313 340

鎮火祭 遺 183  
 道饗祭 一 469  
 神名帳 二 347 361 369 429 遺 302 309 316 331 337  
 内蔵寮 二 260 344  
 陰陽寮 二 91 袖 372  
 内匠寮 二 289  
 雅楽寮 二 203  
 諸陵寮 遺 30 359 袖 142 178  
 大膳職 胆 369 二 312 袖 14 183  
 内膳司 胆 369 二 312 袖 14 183  
 彈正台 二 293  
 左右衛門府 二 150 293  
 雜式 二 100 349  
 円光大師の伝記 釈源空伝記<sup>注2</sup> 一 35 146 遺 227  
 艶道通鑑(残口) 妾 119  
 大鏡 遺 564  
 おそめ久松袂の白紋(海音) 談 96

をだ巻網目(溝口竹亭)

二 451

落窪物語

談 174

温泉の考へ(稻生若水)

遺 195

か

槐記(近衛家熙)

胆 325

懐風藻

一 473 474 二 88 89 127 128 129 遺 59 60 63

277 496 553 袖 58 60 116 118 158 235 493 茶 248

柿本影供記||影供記(藤原敦光)

二 254 261

柿本大明神神階宣下次第||享保八年の宣命

二 266

柿本寺歌塚縁起||大和国添上郡柿本明神の

二 258

碑文(百拙元菴)

二 258

柿本朝臣人麿画讃||敦光の讃辭(古今著聞

二 256 264 265

集卷五などに所収)

二 256 264 265

柿本朝臣人麿勳文||人丸勳文・勳文(顯昭)

二 246 251 253 257

柿本大夫祠堂碑銘||明石の碑文(林鷲峯)

二 254 261

柿本人丸事跡考||人丸事跡考(大典顯常)

胆 326 328 二 250

大和国葛下郡柿本村碑文(林鳳岡)

き

二 260

石見国高角祠碑文(大典顯常)

二 267

歌経標式||浜成が和歌式

春 165

革命之諫||革命意見(三善清行)

春 169

蜻蛉日記

一 72 遺 455 497

歌聖伝(秋成)

胆 328 二 73 二 77 138 袖 129

敵討御未刻太鼓(長谷川千四)

妻 188 胆 288

花鳥余情(一条兼良)

二 481

仮名手本忠臣蔵

機 45

仮名日本紀

二 310

仮字問答(田安宗武、加藤宇方伎)

一 438

鐘筑波||几童追善集

遺 583

兼盛集

二 30 303 317 327 355

壁の賦

一 110 遺 302

神代かたり(秋成)

胆 258

雅遊漫録(大枝流芳)

遺 574 茶 228

歌林樸樾(松永貞徳)

二 226

菅家文章

二 481

冠辞考統紹(秋成)

二 428 遺 50

喫茶往来(玄恵)

二 499

橘窓茶話||雨伯陽茶話(雨森芳州)

二 220 遺 32

喫茶養生記(栄西)

二 483 484

京名所

談 174

玉海抄(九条兼実↓玉葉)

二 481

玉葉抄

二 314

玉葉和歌集

二 472

馭戎慨言(宣長)

胆 312 一 195 426 435 481 492

清正集

二 326 374

清輔朝臣集

二 346

金槐和歌集

遺 242

金玉集(公任)

二 246 247 248

金砂(秋成)

二 226 茶 247

金葉和歌集

二 9

旧事記(↓先代旧事本紀)

一 424 472 478 二 64 351 遺 35 36

旧事記大成経(↓先代旧事本紀大成経)

一 472 遺 36 495

くらぶ山 遺 574

け

経国集 二 481

鉗狂人(宣長) 一 435

元亨釈書 二 265

源氏物語源語 猿 72 84 雨 35 談 70 114

一 39 二 16 68 110 167 363 392 401 遺 95 97 100 104

112 331 355 507 563 杣 340 376 499

桐壺 一 40 二 41

桐壺 夢浮橋 遺 97

箒木 雨夜の品定 遺 115 116 508

夕顔 杣 322

須磨・明石 遺 100

総合 胆 328 368 二 49 386 388 杣 376

薄雲 二 313

朝顔 榎 遺 95 98

乙女 遺 114 211 遺 83

螢 遺 104 108

若菜 杣 340

梅枝 二 15 218 240 遺 42 杣 23 茶 247

宇治の巻々 遺 331

総角 二 385

頭昭陳状 歌合陳状 二 18 222

頭注密勅 二 248 遺 525

源平盛衰記 一 146 遺 227

江家次第 二 293

古今集註 頭昭の古今の注 二 322

古今余材抄 契沖の抄 遺 525

古今和歌集 延喜の勅撰 猿 72 胆 353 二 9

15 37 46 50 63 64 73 89 105 114 218 219 237 240

241 242 249 257 269 281 282 283 288 288 218 219 237 240

304 305 311 314 315 316 317 318 319 320 322 286 217 219 237 240

332 333 336 341 345 346 349 350 352 352 322 286 217 219 237 240

361 364 365 366 367 368 369 373 374 375 376 353 322 286 217 219 237 240

392 395 403 405 421 467 遺 42 46 47 49 92 380 356 324 288 218 219 237 240

392 395 403 405 421 467 遺 42 46 47 49 92 380 356 324 288 218 219 237 240

546 杣 3 7 23 47 300 398 430 45 468 481 492 123 202 246 247

仮名序・真名序胆 308 二 9 11 14 108 198 241

(貞応本) 246 247 248 254 264 282 288 321 遺 43 119 524 656 杣 22

統万葉集 春 164 二 9 217 遺 42 43

古今和歌集打聴(真淵) 遺 541

古今和歌集抄目録(藤原仲家、人麿勸文に よる) 二 246 247 251

古今和歌六帖 古今六帖・紀氏六帖 二 99 203 274 281 291 294 299 303 324 332 337 339 344

227 424 352 358 368 374 376 380 383 391 392 400 421 424 523 564 杣

古言梯(楨取魚彦) 一 438

古語拾遺(斎部広成) 一 424 479 二 335 468 遺 36 杣 242

序 一 470 遺 37

古事記 胆 254 一 109 424 479 二 335 468 遺 36 杣 242

222 478 479 482 二 80 82 86 115 117 128 162 174 177 221

235 245 285 289 294 297 311 313 316 317 340 347 355

356 359 364 370 378 389 393 396 398 407 411 415 417 418 419

426 427 428 429 430 432 433 5 11 14 17 21 33 33 48 57

426 356 359 364 370 378 389 393 396 398 407 411 415 417 418 419

222 478 479 482 二 80 82 86 115 117 128 162 174 177 221

235 245 285 289 294 297 311 313 316 317 340 347 355

356 359 364 370 378 389 393 396 398 407 411 415 417 418 419

426 427 428 429 430 432 433 5 11 14 17 21 33 33 48 57

426 356 359 364 370 378 389 393 396 398 407 411 415 417 418 419

222 478 479 482 二 80 82 86 115 117 128 162 174 177 221





銚子銘(都良香、本朝文粹所収) 二 495

茶壺(狂言) 茶 231

つ

藤妻冊子(秋成) 胆 316 遺 256 596

堤中納言物語 虫めづる姫君の巻

貫之集 二 282 286 291 292 335 375

釣狐(狂言) 猿 95

徒然草 猿 74

て

徹書記物語(正徹) 二 253 266

鉄槌(青木宗胡) 妾 205

手爾葉大概抄(藤原定家) 二 452

手引草 談 120

点茶式 茶 232

と

道成寺(謡曲) 胆 255 366 375

同類和歌集 遺 528

読史余論(白石) 一 473 二 127 遺 60 496

土左日記 胆 306 一 208 二 159 348 385 391

遺 235 532 533 535 642 200 369

土佐日記抄||北村法印の抄 遺 532 533

鈍太郎(狂言) 談 131

な

中務集 胆 324 二 351

仲文集 二 336

西山物語(綾足) 遺 408

日本逸史(鴨祐之) 一 479 二 228 308 遺 40

日本紀寛宴和歌 一 432 遺 121

日本紀私記 一 483 二 271 340 遺 11

日本紀略 一 479 二 241 247 406 481 遺 90

日本後紀 一 479 二 247 305 404 遺 39

日本三代実録 一 479 二 247 305 404 遺 241

日本春秋(日初) 一 473 二 127 遺 60 492 496

日本書紀||養老の紀 春 148 胆 354 一 60 194 424

遺 450 466 467 468 469 471 474 477 478 481 484 二 3 6 7

遺 51 127 128 174 219 221 222 224 228 235 238 240 242 245 246 247

遺 251 265 275 306 310 362 393 411 415 417 419 420 425 426 427

遺 428 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

遺 194 265 349 496 502 523 639 41 83 107 192 212 226 382

414 467 茶 223 239

の古巻裏書 二 219 240 遺 32

神代紀||神代がたり機 45 胆 330 一 471 477

二 25 83 84 94 140 151 162 172 200 220 294 311 477

神武紀 61 198 272 295 317 417 425 427 436 449 460

崇神紀 胆 279 一 477 484 二 33 175 483 460

景行紀 二 102 110 360

成務紀 二 135

仲哀紀 一 494 二 67 334

神功紀 二 60 173 205 217 296 309 367 468

心神紀 329 352 60 67 173 205 217 296 309 367 468

仁徳紀 316 335 363 419 477 396 159 334

允恭紀 二 110 149 328 350 370 401 422 422 61 417

遺 310 56 142 93 30 127 219 155 168 220 219 357 309 468

雄略紀	—	482	—	43	64	79	82	180	227
顯宗紀	242	遺	40	285	125	189	211	342	460
仁賢紀	—	70	307	200	260	260	481	—	—
武烈紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
繼體紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
安閑紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宣化紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
欽明紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
用明紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
推古紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
皇極紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
孝德紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
齊明紀 (童謡)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
天智紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
天武紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
文武紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日本文德天皇實錄	—	—	—	—	—	—	—	—	—

日本輿地通志 興地志 (並川永)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
撰津志	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大和志	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日本靈異記	—	—	—	—	—	—	—	—	—
後の毎月集 (秋成)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
俳諧曉山集 (芳山)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
俳諧古今抄 (支考)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
俳諧十論 (支考)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
俳諧新式 元祿の新式 (鷺水)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
梅山秘録 (高遊外 ↓ 梅山種茶譜略)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
万宝全書	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ひ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人麻呂伝 (林羅山)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人丸秘密抄	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百椿集 (安染庵策伝)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日吉社神道秘密記 (行丸)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

風雅和歌集	—	—	—	—	—	—	—	—	—
袋草紙 (藤原清輔)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富士山説 (秋成)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
扶桑拾葉集 (徳川光圀編)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
扶桑略記 (皇門)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
風俗歌	—	—	—	—	—	—	—	—	—
風土記	—	—	—	—	—	—	—	—	—
出雲国	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伊勢国	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伊予国	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石見国	—	—	—	—	—	—	—	—	—
播磨国	—	—	—	—	—	—	—	—	—
常陸国	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豊後国	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大和国	—	—	—	—	—	—	—	—	—
夫木和歌集	—	—	—	—	—	—	—	—	—

兵家茶話(日夏繁高)

遺 456

万葉考(真淵)

二 20  
226  
252  
269  
379  
遺 204

平家物語

二 167

万葉集

談 106  
春 213  
胆 299  
326  
328  
329  
352  
368  
369  
一 70

ほ

保元物語

二 404

万葉集抄(紀貫之撰、八雲御抄による)

二 19  
袖 26

法隆寺伽藍縁起并流記資財帳 二 46 47 165 308 427  
堀河院後度百首(↓永久四年百首) 二 39

万葉集鈔(前中書王、万葉緯による)

二 19  
袖 26

本佐録(本多正信)

一 488

万葉拾穂抄(季吟)

二 20  
218  
223  
237  
239  
袖 27

本朝文粹

二 333  
遺 529

万葉集註釈Ⅱ仙寛抄

二 10  
19  
20  
223  
遺 664

ま

毎月集(曾根好忠)

一 157

万葉代匠記(初稿本)

二 20  
223  
226  
袖 29

枕詞燭明抄(長流)

袖 27

万葉見安(堯以)

二 19  
223  
袖 27

枕草子Ⅱ清少納言の草子

猿 84  
胆 353  
袖 20  
二 40

若沖の新注

二 226  
袖 30

238  
284  
306  
遺 89  
134  
390  
袖 18  
19

増鏡

水鏡

一 479

——内野の雪

遺 569

躬恒集

二 284

——くめのさら山

二 261

みなしくり(其角編)

胆 319

松風(謡曲)

猿 44

源順家馬毛名歌合

二 274  
袖 13

松屋会記(松屋久重)

胆 308  
遺 528

源順集

二 284  
311  
323  
341  
362  
384

万葉緯(今井似閑)

二 19  
226

三輪(謡曲)

胆 255  
366  
375

万葉集佳詞(伝藤原為家)

二 19  
袖 26

万葉集管見(長流)

二 20  
袖 27

万葉集時代難時(顕昭)

二 19  
袖 26

224  
236  
245  
246  
247

187  
202  
303  
340  
353  
523  
530  
536  
袖 1  
3  
7  
20  
443  
茶

42  
44  
46  
47  
49  
64  
90  
92  
94  
134  
179  
181  
182  
184

419  
421  
424  
425  
426  
427  
428  
429  
467  
474  
477  
481  
482  
484

380  
381  
382  
383  
384  
389  
392  
395  
371  
372  
373  
374  
375  
376  
377  
378

349  
350  
351  
352  
353  
354  
355  
356  
357  
341  
342  
343  
344  
345  
346  
348

明朝紫硯(大岡春卜) 一 187

む

無名抄(長明) 二 258  
遺 230  
杣 463

紫式部日記 遺 116

め

鳴鶴園の記(秋成) 遺 292

明月記(藤原定家) 談 144

や

家持集||歌仙集 胆 328  
遺 44

八雲御抄(順徳天皇) 二 16  
19 217  
241 299  
杣 26  
395

八島(謡曲) 猿 45

夜船閑話||夜船物語(白隠) 遺 645

矢の根曾我 猿 37

山霧の記(秋成) 一 112

倭姫命世紀 二 307  
311 313  
323 331  
334 335  
343 345  
345 366  
遺 651

大和物語 談 135  
二 69  
165 166  
166 293  
300 300  
遺 339

よ

よし野紀行(几董) 遺 586

能宣集 二 284  
286  
291 303  
324 324  
349

吉野都女楠||女楠(近松) 猿 6

ら

羅山文集(↓羅山先生文集) 遺 553

濫觴抄(大日本史による) 一 491

り

律令||律令格式・大宝の令春 166 二 9  
89 248  
270

— 軍法令 一 477  
杣 247  
314

— 職員令 二 250  
杣 314

— 儀制令 杣 194

— 衣服令 二 43

— 喪葬令 二 246

龍巖集 二 482

令義解 一 477  
二 9  
172 250  
270

る

類聚国史 一 479  
二 340  
406 501

類聚万葉集(↓類聚古集) 二 16  
19 223  
杣 26

類聚古万葉集作者目録||万葉目録(人磨勤文による) 二 16  
246  
杣 31

れ

靈語通(秋成) 二 284

— 仮字篇 一 212  
二 275  
杣 30

— 名物篇 二 305

— 国号篇 二 336

— 歷代皇紀(大日本史による) 一 491

— 連歌提要(沾徳) 二 451

ろ

— 老人雑話(江村専齋) 胆 306  
遺 87  
533 534

わ

— 和漢朗詠集 遺 529  
杣 210

— 和名類聚抄||和名抄 胆 299  
一 69  
457 491

221 177 338 284 493 36 43 56 67 80 83 86 110 137 156 182 201 281

338 285 288 292 293 294 302 304 308 314 322 324 325 327 334

340 350 355 363 375 383 390 415 427 428 432 432 432 432 432 432

347 183 185 186 523 523 523 523 523 523 523 523 523 523 523 523

352 363 384 418 420 460 107 155 183 196 205 217 220

221 305 320 347 352 363 384 418 420 460 107 155 183 196 205 217 220

— (十卷本、二十卷本) 一 210  
211

— のはじめに林道春の書れし文 二 284

Ⅱ 漢籍・仏典 その他

あ

晏子春秋(齊、晏嬰、陶説による) 茶 241

い

一家言(清、李漁) 一 116

一切経 春 159 遺 156

異物志 遺 198

医通(明、韓恣、↓韓氏医通) 談 119

因果経 猿 32

韻鏡(宋、張麟之) 猿 86

隱居放言(明、夏基) 一 226

印藪(明、王常、↓集古印譜) 一 495

印範(藩雲杰) 一 495

え

瘞旅文(明、王陽明) 二 228

易经 胆 272 遺 196 260 273 遺 49 袖 10 444

越国史 遺 128

越絶書(漢、袁康) 二 197 袖 446

淮南子 一 471 二 199 遺 153 431 袖 467 478

円覚経

淵鑑類函(清、張英等) 遺 420

袁宏漢紀(晋、袁宏、↓後漢紀) 二 124 遺 84 495

お

横江詞(唐、李白) 二 68 遺 380

温疫論(明、吳有性) 談 119

か

開元天宝遺事(五代、王仁裕) 一 69

芥子園画伝(清、王槩等) 一 187 213 216 遺 188

花鏡(清、陳浪子、↓秘伝花鏡) 遺 188

学古編(元、吾丘衍) 一 495

花史左編(明、王路) 遺 175 182

甘氏印王(明、甘暘、↓印正附説) 一 495

閑居賦(晋、嵇康) 二 36 遺 181

韓詩外伝(漢、韓嬰) 二 199 袖 451

漢書(漢、班固) 一 211 484 493 袖 446

武帝紀 一 495

地理志 一 491

賈誼伝 春 156

晁錯伝

観音経 一 477

観経 二 187 187 205

き

魏志(Ⅱ三国志魏書) 一 491 492 493

玉篇(梁、顧野王) 二 415 遺 93

漁父辞 談 192 袖 501

金匱要略(漢、張機) 機 44 談 119

錦繡万花谷 遺 182

金陵瑣事(明、周暉) 遺 182

く

群芳譜(明王象晋) 遺 175 180

け

荆楚歲時記(晋、宗懷) 機 8

華嚴経 春 152 二 187 遺 69 105

こ

孝経 遺 25

孔子家語 胆 368 袖 447

黄帝素問Ⅱ素問Ⅰ素難 機 45 談 119 春 159

後漢書(宋、范曄)

— 211 杣 485

— 百官志

— 204 杣 466

— 李膺伝

— 杣 465

— 東夷伝

— 491

古今奇観注6 || 墨政斎奇観

— 228 遺 41

古今印史(明、徐官)

— 495

五雜俎(明、謝肇淛)

— 479 遺 493 502

吳子(周、吳起) ↓ 孫吳

— 猿 2

甲古戰場一文(唐、李華)

— 131

金剛經

— 兩 46

さ

— 最勝王経

— 198 杣 446 456

— 蔡邕女戒

— 談 129

— 山家清供(宋、林洪)

— 二 483

— 三論

— 春 154

し

— 爾雅

— 206 杣 340 482

— 史記(漢、司馬遷)

— 妾 126 遺 211 杣 114

— 孝武本紀

— 二 199 杣 451

— 伍子胥列伝

— 二 416

— 范睢列伝

— 杣 451

— 李斯列伝

— 二 198 杣 446

— 蒙恬列伝

— 杣 465

— 張丞相列伝(周昌伝)

— 477

— 貨殖列伝

— 雨 133

— 詩経 || 詩・毛詩

— 雨 42 春 169 二 19 38 198 204 273 274

— 482 遺 49 50 147 杣 10 34 446 465

— 大雅・小雅・国風

— 遺 119

— 国風周南關雎・卷耳

— 遺 115

— 国風召南行露 || 多露行露

— 春 185 二 38

— 国風衛木瓜

— 遺 178

— 国風唐蟋蟀

— 二 416

— 国風豳東山

— 二 314

— 小雅鹿鳴天保

— 遺 461

— 詩経図後序

— 胆 293 遺 380

— 七儒解(明、宋濂)

— 二 190 遺 80

— 七修類彙(明、郎瑛)

— 遺 139

— 試茶録(宋、朱子安)

— 二 486

— 七碗歌(唐、盧同)

— 二 498

— 事物紀原(宋、高承)

— 二 204

— 积氏五供養

— 遺 181

— 积名(漢、劉熙)

— 春 164 二 9 108 217 241

— 遺 42 杣 21 54 茶 246

— 寰泉小品(明、田芸衡)

— 二 493

— 集韻(宋、丁度等)

— 二 413

— 集韻韻會

— 二 413

— 秋風賦注7(唐、劉禹錫)

— 二 9

— 周礼

— 二 203 杣 462

— 荀子

— 談 110 二 416 杣 465

— 春秋

— 妾 120 遺 103 106 114

— 春秋左氏伝

— 胆 368 遺 425

— (宋公)秋興賦

— 二 200 杣 457

— 遵生八牋(明、高濂)

— 二 496

— 順正理論

— 二 198 杣 447

— 十四経

— 猿 56

— 春夜宴桃李園序(唐、李白)

— 一 97 98

傷寒論(漢、張機) 妻 135 機 44 說 119 胆 368

茗溪詩話(↓漁隱叢話) 二 497

十六湯品(唐、蘇夔) 二 490

書經書 二 274 遺 22 49 袖 10

——辭典 春 165 二 108 199 217 241 遺 43 袖 22 茶 246

——大禹謨 袖 451

食物本草(明、李時珍) 二 482 487

真音彙音 二 500

秦漢印統(明、羅王常) 一 495

心史(宋、鄭思肖) 胆 311

——一是居士傳 胆 310

晉書 一 493 袖 483

水滸伝 雨 35

水品論(鐘伯敬) 二 493

西湖遊覽志(明、田汝成) 遺 177

西廡記 一 477

世說新語(宋、劉義慶) 袖 485

說文解字(漢、許慎) 春 165 一 89 491 二 108

千金方(唐、孫思邈、↓備急千金要方) 93 127 511 袖 202 461 469 茶 246

千字文 遺 255 514

錢神論(晉、魯褒) 胆 367 遺 520

全浙兵制考(明、侯繼高) 竹錄日本風土記 二 422

煎茶詩(宋、丁謂) 二 493

宣和印史(明、來行学) 一 495

荊子南華經 猿序談 189 胆 259

齊物論 二 197 袖 446

大宗師 二 197 袖 446

則陽 二 9 241 遺 42

——盜跖 二 198 袖 446

統說郭 茶 231

統博物志(宋、李石) 二 232 袖 253

素書(漢、黄石公) 胆 257

素難黃帝素問・難經

孫吳孫子・吳子 猿 2

孫子 猿 2

大愛比丘尼經 遺 356

大觀茶論(宋、徽宗) 二 484 485 486

大荒賦(魏、陳琳) 二 196

大乘經 雨 43

大藏經 猿序

大人賦(漢、司馬相如) 袖 465 480

大般若經 二 232 袖 253

地球之図(オランダ) 一 425

知新録(清、王棠) 二 494 502



孟子 雨42 二203 袖463

文選(梁、蕭統) 一211 袖481

—(宋玉)風賦 二206 袖469

—(張平子)埽田賦 二205 袖469

—(嵇康)琴賦 二203 204 袖463 465

—(謝靈運)登池上樓 二87 袖266

—(鮑明遠)翫月城西門廡中 二378

—(曹子建)求通親表 袖486

—(司馬相如)上疏諫獵 二196 袖444

—(李少卿)答蘇武書 二198

—(顏延年)三月三日曲水詩序 二9

唯識 遺74

遊仙窟(唐、張鷟) 二304 袖425 456

西陽雜俎(唐、段成式) 遺199

輿地志 一499 袖451

禮記 二198 274 362 416 袖10 446

—曲禮 遺589

—王制 胆298

—月令 猿101 一109 159 二55 遺127 128 129 130

—棗記 二217 241 遺43

蘭亭記(晉、王羲之) 二206 袖469

六書通(明、閔齊伋) 一495

六經 二273 416 437 袖10

老子 論語 機45 談111 115 151 187 胆368 遺514

列女傳(漢、劉向) 楊朱篇 二203 416 袖251

列子 禮聘 註 談122

靈台儀象志(清、南懷仁等) 遺486

楞嚴經 二197 袖446

呂氏春秋(秦、呂不韋) 遺139 144 146 148

律曆淵源(清、允祿等) 遺486

送李愿歸盤谷序(唐、韓愈) 胆365 372 一98

論衡(漢、王充) 一484 491 遺143 431 棗224

朝文集)かまたは「奉管右相府書」(本朝文粹)をさす。

4 万葉の題号論、特に葉の字義論をのべる場合の異名。

5 引用文は、同じ作者の「養生論」(文選所収)に拠っている。

6 高田衛氏『上田秋成研究序説』二二八頁参照。

7 正しくは「秋声賦」

1 栄花物語月のまにみえる万葉成立に関する記事をさす場合、すべてこの異名を用いている。

2 拙稿「宮木が塚と法然上人伝」(富山大学教養部紀要9、昭和52年3月)参照

3 中村幸彦氏古典大系春雨物語補注によれば「預論革命議」(本

8 引用文は同書附録の「煎茶七類」(徐謂)から。

9 札記（附録）または饒礼（附録）のことかと思われるが、引用文と同じものはいずれにも見あたらない。

付記

作製にあたって、勤務先を同じくする佐藤進氏には漢籍の調査に  
関して多大の協力を得ました。また、高島要氏からも多くの教示を

## 夏目漱石の「拙」と陶淵明

河 辺 正 行

### 一 はじめに(陶淵明について)

まずはじめに陶淵明（つゝ）についての概説をしておく。陶淵明(三六五  
〜四二七)は中国の東晋時代の末期から南朝(劉)宋初期にかけて  
生きた中国の代表的な詩人である。江州尋陽郡柴桑県（じんよう、さいそう）に生まれた。  
名は潜。一説に名が淵明字を元亮ともいう。諡は靖節。東晋初期の  
名将陶侃（ちかん）の曾孫とされるが確かではない(陶侃は東晋の初めその武  
功によって長沙郡公・大司馬(最高軍司令官)にまで榮進した)。

得ました。記して謝意を表します。

末筆ながら、このたび退官される高羽五郎先生の御健康を心から  
お祈りいたします。先生とともに過した在学中の二年半は私共にと  
ってひととき意味深い日々でありました。怠惰な学生であった私に  
とって、先生の退官を機に刊行される本号にこのようなかたちで発  
表の機会を得たことを心からうれしく思います。

陶淵明の家柄は、代々南方土着の下級貴族で、生活のため二十九歳  
の時初めて出仕し地元江州の祭酒(州の教育長)に就任した。以後  
数回官途にいたが肌合わず転々と職を変えた。義熙元年(四〇  
五)八月に第五回目の出仕として彭沢県令(知事)に就任した。そ  
してやはりこの職も肌に合わず僅か八十余日で自発的に退官し「帰  
去来の辞」にその気持ちを託し「拙」を守って故郷に帰り、以後一  
生農耕生活を送った。時に淵明四十一歳の暮れのことである。彼が  
郷里柴桑に帰隠して三年目にあたる義熙四年の六月、突然の火事に